

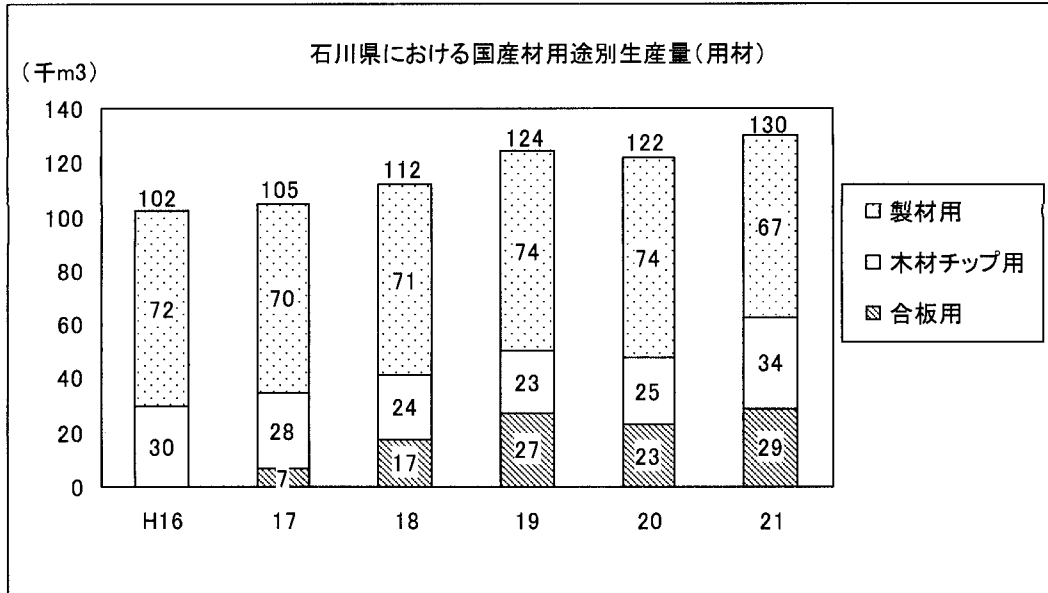
# I 石川県における木材産業の概要

## 1 木材の需要と供給の現状

### ○ 木材生産量が増加

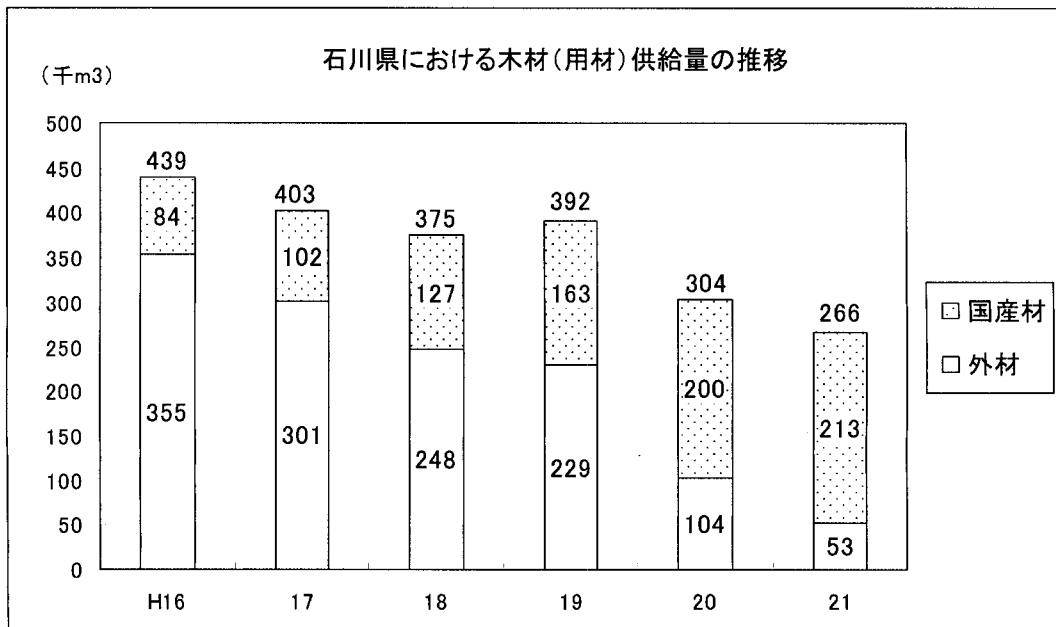
平成 21 年次の県内木材生産量の総数は、130 千 m<sup>3</sup>（対前年 106.6%）であった。

用途別では、製材用が 67 千 m<sup>3</sup>（対前年 90.5%）、合板用が 29 千 m<sup>3</sup>（対前年 126.1%）、チップ用が 34 千 m<sup>3</sup>（対前年 136.0%）となった。



### ○ 国産材供給割合が上昇

平成 21 年次の県内木材供給量の総数は 266 千 m<sup>3</sup>であった。内訳は、国産材が 213 千 m<sup>3</sup>（対前年 106.5%）、外材が 53 千 m<sup>3</sup>（対前年 51.0%）となった。国産材供給率は、80.1%（対前年 14.3 ポイント増）と大きく上昇した。



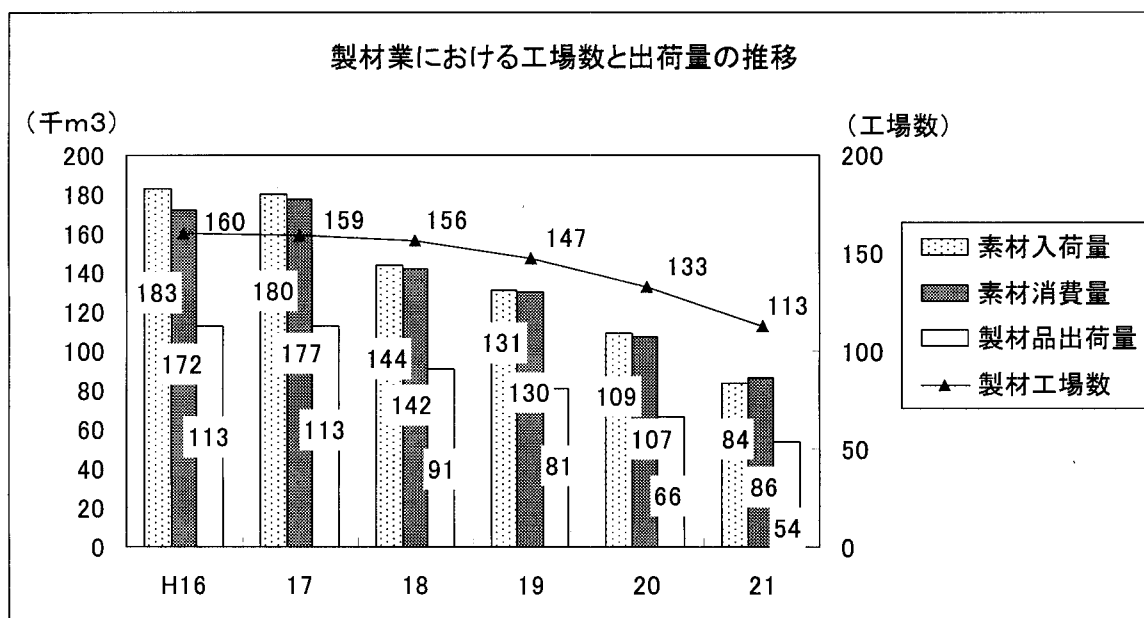
## 2 木材工業の現状

### (1) 製材業

#### ○ 工場数・素材入荷量が減少

平成 21 年次の県内製材工場数は、113 工場(対前年 20 工場減)、従業者数は 334 人(対前年 61 減)となった。素材入荷量は、84 千 m<sup>3</sup>(対前年 77.1%)であり、内訳は国産材 58 千 m<sup>3</sup>(対前年 86.6%)、外材 26 千 m<sup>3</sup>(対前年 61.9%)になった。素材消費量は、86 千 m<sup>3</sup>(対前年 80.4%)であり、製材品出荷量は、54 千 m<sup>3</sup>(対前年 81.8%)であった。

また、動力の総出力数は、9,726kW(前年比 87.8%)であり、工場当たりの出力数は 86.1kW であった。



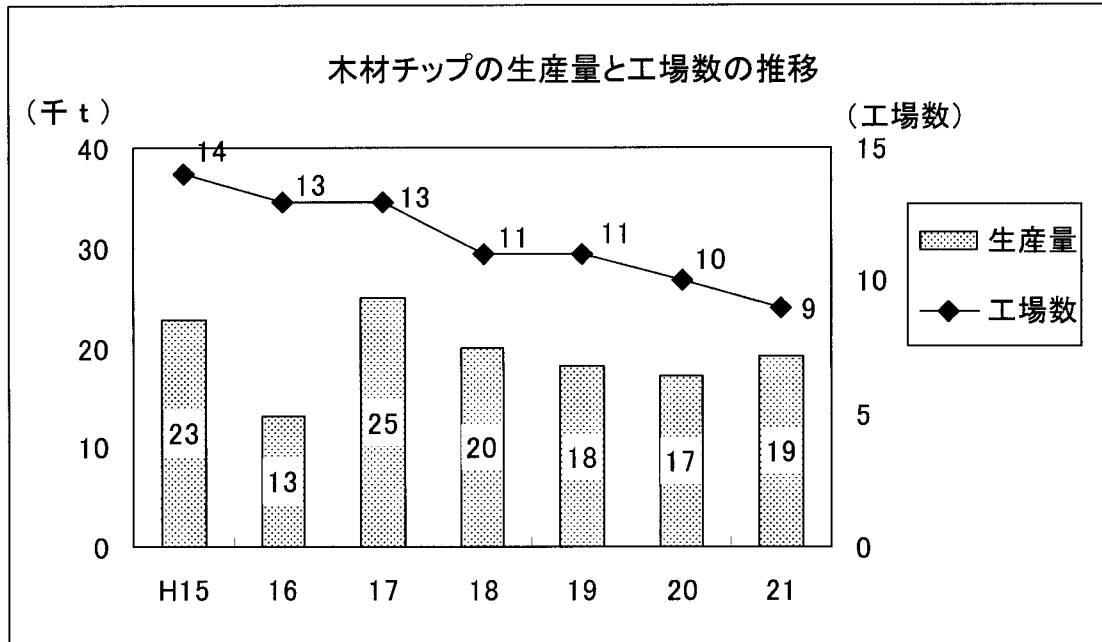
### (2) 合板製造業

平成 17 年次より、法人等の個別情報に関わるため合板製造量等の数字は非公表となっているが、合板製造用原木に占める国産材の割合は上昇している。

### (3) 木材チップ工業

#### ○ 生産量が上昇

平成 21 年次の県内木材チップ生産量は、19t(対前年 111.8%)となった。原材料入手区分別では、工場残材が 7 千 t(対前年 100.0%)、素材が 12 千 m<sup>3</sup>(対前年 120.0%)となった。工場数は 9 工場(対前年 1 工場減)であった。



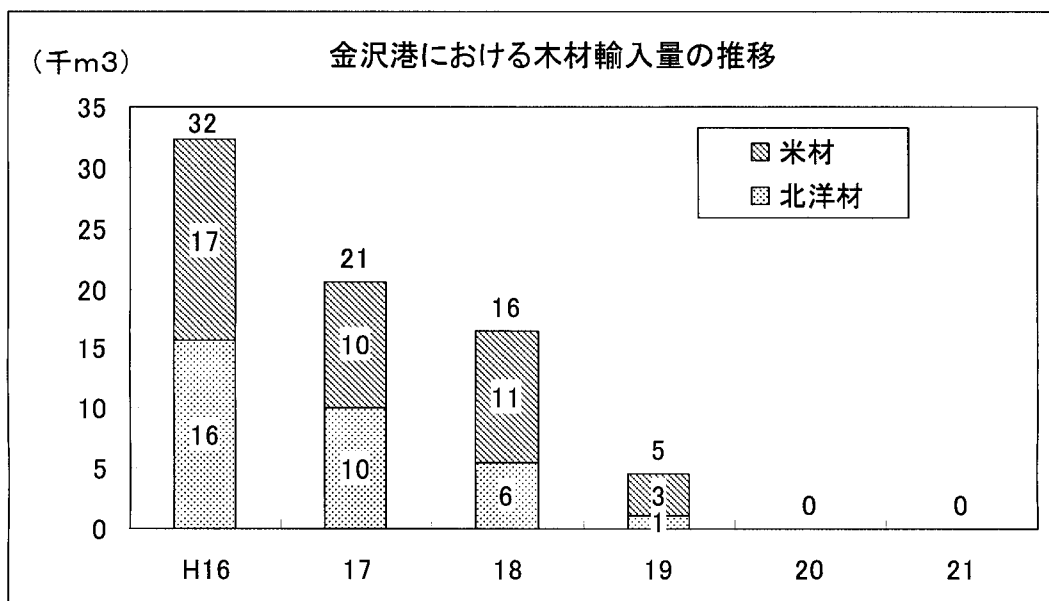
※注：平成15年については、容積(m<sup>3</sup>)を重量(t)に換算した。なお換算には、林野庁が木材需給表作成に使用している換算率(針葉樹：1t=2.2m<sup>3</sup>、広葉樹：1t=1.7m<sup>3</sup>)を用いた。

### 3 木材輸入の動向

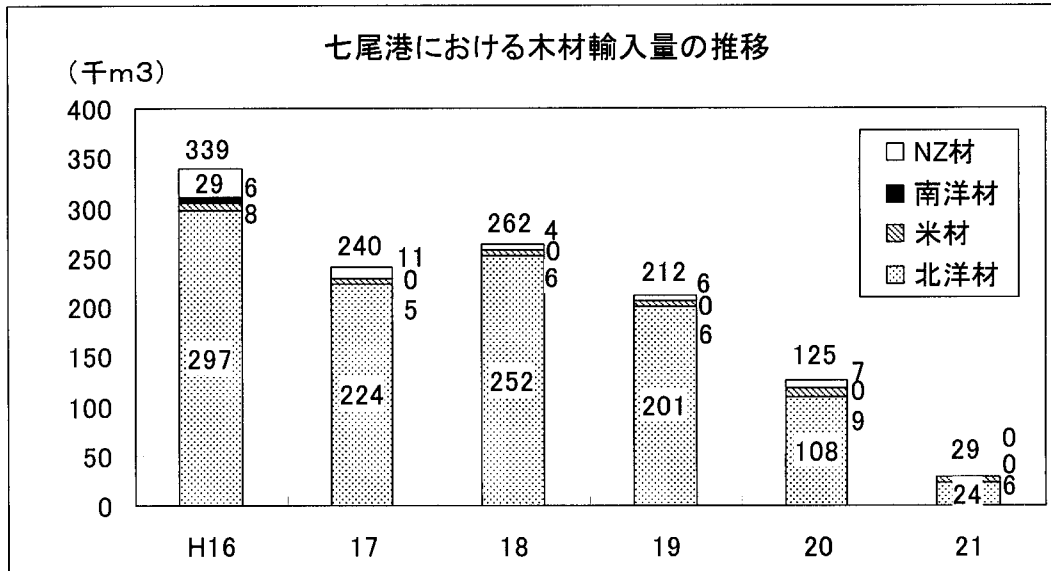
#### ○ 木材輸入量が減少

平成21年次の県内木材輸入総量は29,169m<sup>3</sup>(対前年23.4%)であった。内訳は、北洋材が23,570m<sup>3</sup>(対前年21.7%)、米材が5,599m<sup>3</sup>(対前年62.1%)であり、北洋材率は80.8%であった。

北洋材の内訳をみると、カラマツが13,871m<sup>3</sup>(構成比58.9%)、アカマツが9,699m<sup>3</sup>(構成比41.1%)となった。



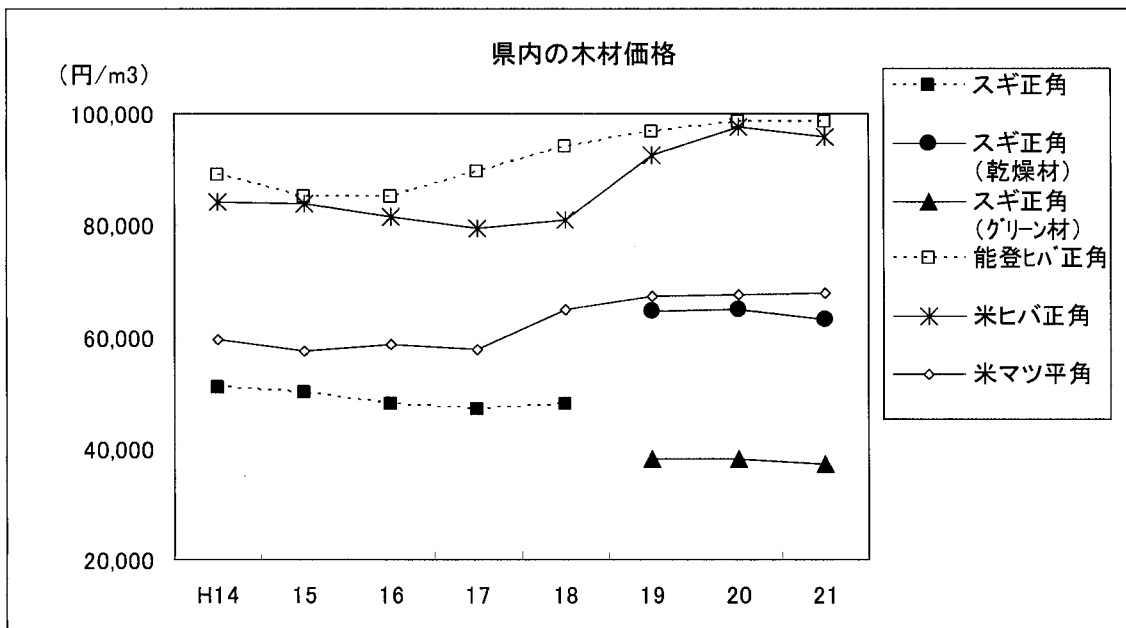
※平成20年次の金沢港における木材輸入量は北洋材27m<sup>3</sup>



#### 4 木材価格の動向

##### ○ 製品価格が下降傾向

平成 21 年次の県内の木材製品価格は、スギ正角（乾燥材）は 63,000 円/m<sup>3</sup>（対前年 2,000 円安）、スギ正角（グリーン材）は 37,200 円/m<sup>3</sup>（対前年 800 円安）、スギ正割は 50,200 円/m<sup>3</sup>（対前年 200 円安）、能登ヒバ正角は 98,600 円/m<sup>3</sup>（前年同額）となり、米ヒバ正角は 95,900 円/m<sup>3</sup>（対前年 1,600 円安）、米マツ平角は 67,900 円/m<sup>3</sup>（対前年 300 円高）となった。

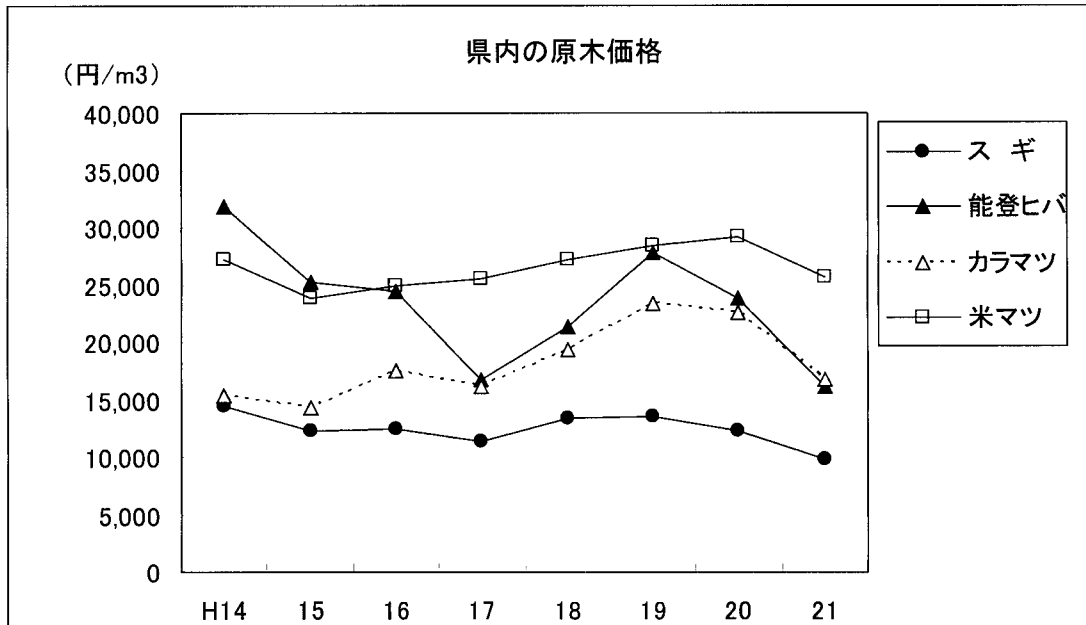


平成 19 年 5 月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

※スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材に分けて調査開始。

○ 素材価格が下降傾向

平成 21 年次の県内の製材用素材価格は、スギは 9,900 円/m<sup>3</sup>(対前年 2,400 円安)、能登ヒバは 16,200 円/m<sup>3</sup>(対前年 7,700 円安) となり、カラマツは 16,800 円/m<sup>3</sup>(対前年 5,800 円安)、米マツは 25,700 円/m<sup>3</sup>(対前年 3,600 円高)となった。



5 新設住宅着工戸数の推移

○ 新設住宅着工戸数が減少

平成 21 年次の県内新設住宅着工数 6,237 戸(対前年 74.9%)のうち木造住宅は 4,648 戸(対前年 79.2%)となった。新設住宅着工数の木造率は 74.5% (対前年 4.1 ポイント増)であった。

着工新設住宅の総床面積は 630 千m<sup>2</sup>(対前年 77.6%)で、1戸当たりの平均床面積は 101.0 m<sup>2</sup>(対前年 103.6%)であった。

